

日赤安全奉仕団（新潟県支部より派遣）新潟市西区でのボランティア報告

参加	1/15 - 2名、1/16 - 1名、1/17 - 1名、1/19 - 1名
場所	新潟西区災害ボランティアセンター（みどりと森の運動公園 屋内コート）
内容	ボランティアの安全管理、救護所に待機



《西区災害ボランティアセンターの役割》

●住民ニーズとボランティア希望者のマッチング

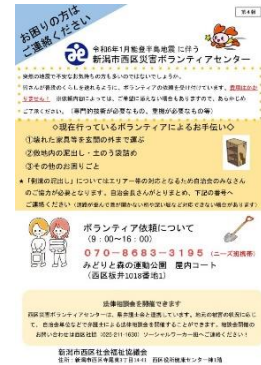
- ・一般家庭の土砂処理、家具の運び出し等、ニーズに応じた内容で募集
- ・土のう袋、スコップ等の資機材はボラセンで用意

●ボランティアの管理・調整

- ・ボランティアをチームに分け、活動場所を指定する。
- ・ボランティアの安全・体調管理を徹底（活動時間は9時～15時）

●行政・関係機関との連絡

- ・行政対応が拡充し、ボランティアへの依頼は減りつつある。（50人/日→30人/日）

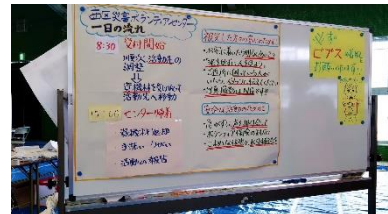


★スタッフは社協職員（西区がメインだが派遣職員も）が中心。

★班分けして役割分担し、機能的に動いている。



地区	内容	人数	班別	備考
山田	土砂の処理	(3)	1	土砂の処理
山田	"	3	2	"
山田	"	3	3	"
山田	家具の運び出し	12	4	"
山田	土砂の処理	4	5	"
山田	土砂の処理	4	6	"
山田	土砂の処理	(10)	7	"
山田	土砂の処理	3	8	"

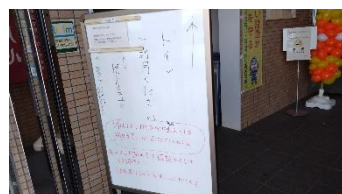


《西区の状況》

- ・道路の陥没や亀裂、家や柱の傾き、土砂の堆積 等が至るところで見られる。



- ・1/17 時点では避難所（黒崎市民会館：災害ボランティアの休憩所としても利用）で1名が、自宅の上下水道にダメージを受けたため、日中は仕事に行き、夜だけ泊っているとのこと。



《日赤安全奉仕団の役割》

- 8:10のスタッフミーティングに参加
- 9:00～のオリエンテーションでは注意事項の伝達の他、腰痛予防体操も行う。
- 9:30～活動場所の地図をコピーし、2～3人／組で巡回（新潟市分団メンバーがナビ役）
- 12:00～13:00 西区災害ボランティアセンターに戻り昼食休憩
- 13:00～15:00 午後の巡回終了後、報告。リーダーは防災ボランティア活動レポートを作成し、ボランティアセンターに保管。県支部に写真データを送る。

★車にステッカーを貼り、軍手、ビニール手袋、土のう袋の予備等を持って巡回。様子を見ながら声掛けをする。「体調はいかがですか?」「水分補給して適度に休んでくださいね」「軍手や土のう袋は足りていますか?」等。

★ボランティアは経験のある人・団体と経験が浅い人が入り混じっているため、スキルに差がある。経験が浅い人がベテランの動きに合わせてようとして無理してケガや腰痛になりやすいので、無理をしないよう声掛けを行う。

★土のう袋に土砂を詰め過ぎて重くなり腰痛の原因となりやすい→詰めるのは5～6割とし、袋を多めに使うように注意喚起する。

日赤ボランティアの役割は事故・ケガ予防!



《支援者支援》

- 1/16以降、「支援者支援」として災害ボランティアセンターにキッチンカーが入り、スタッフやボランティアの心と体に温もりを提供していた。



《参加しての感想》

災害ボランティアセンターの運営、長期的な支援の在り方など、非常に参考になりました。

新潟市分団の皆さんは自らも被災地域住民でありながら、「日赤チーム」の要として継続して活動されていました。心から敬意を表します。

多くの一般・団体ボランティアが活動する中で、日赤安全奉仕団の役割とは何か、あらためて認識する機会となりました。貴重な経験を柏崎市分団にもフィードバックし、今後の活動につなげていきたいと思ひます。